

お互いさま

otagaaisama

恵みあい、助けあう

特集 紙オムツごみ減量化に向けた実証実験

高齢化で増える紙オムツごみ
課題解決に向けた実証実験に参加

クローズアップ

上石神井幸朋苑

「普通の暮らし」の実現を目指して

キラキラ働き人

特別養護老人ホーム 新しいなば幸朋苑 看護師 中野 千香子さん

キッズタウンうきま 保育士 工藤 優子さん

デイサービスセンターうきま幸朋苑 生活相談員 鈴木 めぐみさん



紙オムツ処理装置



こほうえん施設に紙オムツごみ回収BOXを設置

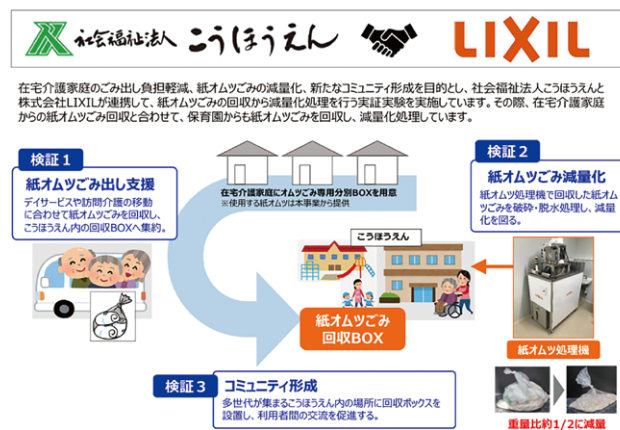


粉砕された紙オムツごみ

なので、在宅介護の場合は回収日まで自宅で保管しておく必要があります。ホームヘルプやご幸朋苑の長谷川さんは「ニオイの問題に加え、高齢者には持てないくらい重量になり、介護ヘルパーさんが朝早く代理でゴミ出しをしています」と現状を伝えます。

また、コミュニティ形成の問題に着目している点もこの実証実験の特色です。こほうえんがフィールドに選ばれたのも、保育園を運営していて多世代交流の接点をつくれる可能性がある点が理由の一つでした。

3つの課題を解決するために今回提案したのは、地域のすまい手とともに、紙オムツごみをこほうえんの施設に集約し、減量化処理するしくみです（図）。こほうえんのデイサービスの3名のご利用者と、訪問介護を利用する5名の協力を得て、送迎や訪問の際に職員が紙オムツごみを回収して



(図) 減量化処理のしくみ

回収BOXに集約。回収BOXが置かれたアザレアコートでは、のぼりや日替わりの紙オムツクイズなどを設置したほか、キッズタウンかみごとの園児も招いて出前授業も開催し、交流の接点を生む仕掛けづくりも行いました。

10日間の実験期間で回収したオムツは子ども用も含めて264個、54kgあった総量は、処理後32kgに削減されました。ホームヘルプやご幸朋苑の長谷川さんは、「利用者のご家族から『溜めておかなくて済む』と好評で、回収に携わった職員も『大きな負担なく続けられる』という評価でした」と現場の声を伝えます。また、アザレアコート施設長の安達さんも「実験で使用した防臭袋がニオイ抑制でかなり効果がありました」と驚きます。

使用済み紙オムツのニオイの問題は、在宅介護だけでなく、介護施設にとっても重要な課題です。よなごエリア総合施設長の高岡さんは「ニオイの改善は生活の質の向上に直結します。施設にとっては介護やサービスの質に関わる問題。いかに

減量化や負担軽減、防臭など 確かな手応え

こうほうえん法人本部がある米子市では、在宅介護で出る紙オムツごみは可燃ごみとして他の燃えるごみと一緒に処理されていますが、高齢化により介護を必要とする人が増えるとともに、その量は年々増加し、減量化が課題となっています。

一方、LIXILは、2018年から介護負担と環境負荷低減を目指して紙オムツ処理機の開発と、複数の介護施設での実証実験を行ってきました。開発した処理機を使う

共同実証事業
2024年11月、住宅設備機器・建材メーカーの株式会社LIXILとこほうえんの共同実証事業として「紙オムツごみ減量化に向けた実証実験」（国土交通省住宅局令和6年度住まい環境整備モデル事業に選定）が米子市の協力のもと10日にかけて実施されました。

高齢化で増える 紙オムツごみ 課題解決に向けた 実証実験に参加

お話を聞いた人



(右から)
よなごエリア幸朋苑 総合施設長 たかおか ひさお 高岡 久雄さん
アザレアコート ころほうえん施設長 あだち じゅん 安達 淳さん
ホームヘルプ よなご幸朋苑 主任 はせがわ 長谷川 めぐみさん
株式会社LIXIL まき みちたろう 牧 道太郎さん

ことで、紙オムツごみの重量は約半分に削減でき、米子市などからの紹介でLIXILとこほうえんが繋がって、紙オムツごみの課題解消や、地域のコミュニティ創出の可能性が検証されることになりました。

紙オムツごみの
在宅介護での3課題
今回の提案では、米子市の在宅介護と紙オムツごみ処置の現状と課題について次の3点に着目しました。

①在宅介護を受ける高齢者の紙オムツごみ出し負担が大きく、保管時のニオイ問題など、すまい手のQOL低下につながっている。

②紙オムツごみは年々増加し、ごみ処理費用や回収・焼却処理時の環境負荷が年々増加している。

③在宅介護者や被介護者の外出機会が制限されており、新たなコミュニティ形成の機会が減少している。

米子市の可燃ゴミの回収は週2回

抑制するか取り組んできました」と過去の苦労が滲みます。

多くの戸数を回ることにも対応できるかなどクリアすべき課題も多く存在しますが、LIXILも手応えを感じた様子。「紙オムツごみをはじめとして、在宅介護世帯が抱える課題の重要性をあらためて認識しました。生活に深く関わる製品のメーカーとして、さまざまな社会課題、環境課題へのソリューションを提案できるように、今後こほうえんと情報交換させていただきたい」とLIXILの担当グループリーダーの牧さんは話します。

紙オムツごみの問題は、焼却施設や環境への負荷、衛生問題など高齢化が進む日本社会全体の課題です。こほうえんも当事者として使用量の削減や行政への提案など、改善に向けて正面から向き合っています。

実証実験の概要

- タイトル
紙オムツごみ減量化に向けた実証実験
- 実施期間
2024年11月14日～26日
- 場所
アザレアコートこほうえん
- 共同事業者
株式会社LIXIL／
社会福祉法人こほうえん



ケアにはユマニチュードの考え方を取り入れています。職員は、ご利用者と目線を合わせてコミュニケーションを取り、それぞれの意思を尊重したケアを心がけています



今年4月に開設したInstagramはご利用者の笑顔が満載



食事やレクリエーションを行う居間のスペース。明るく温かな雰囲気



施設長の高井さんは、ご利用者がそれまでの日常に近い暮らしを送れるように寄り添います

「普通の暮らし」の実現を目指して



毎月、ご利用者と相談しながら一緒に制作する月替わりのフォトボード。玄関に飾られています

close up クローズアップ

こうほうえんの施設とスタッフを掘り下げて紹介！

家族や友人はかけがえのない存在。気軽に面会できるように事前連絡や予約の必要はなく「散歩のついでに来たわ」とお友だちが訪ねて来ることもあります。看取りの際には、家族の気持ちを尊重して宿泊することも可能です。

ご利用者の意思を尊重したケア

施設での「普通の暮らし」を実現する上で重要なことは、ご利用者の意思決定を尊重することです。「ご本人のしたいこと、したくないこと、意思を大切にしています。何かをしたいという気持ちがあれば、それが何であれ叶えられる方法はないか考え続けます」と高井さん。入居前の利用申し込みでも、必ず施設見学をしてもらい、本人や家族が納得した上で利用を決めてもらいます。

上石神井幸朋苑は比較的規模の小さな施設ということもあり、高井さんが施設内を周回しているとご利用者から「ちょっといい？」と声がかかり、直接関わる機会が多いです。「施設長が現場に入って、ケアの考え方を現場に見せているので、職員間で連携がとれていて、ご利用者に寄り添った声掛けをしています」と話すのは、今年3月に上石神井幸朋苑に赴任した主任介護士の堂前さん。ケアが統一され、より質の

可能な限り自由で 普通の暮らしを叶えたい

区立公園に隣接し、緑豊かな閑静な住宅街にある『上石神井幸朋苑』は、特別養護老人ホーム（40床）とショートステイ（4床）のサービスを提供しています。ショートステイのご利用者が特養へと移行することもあり、その場合は部屋の移動がなく、慣れ親しんだ環境のままスムーズな入居が可能です。

施設紹介

上石神井幸朋苑（特別養護老人ホーム、ショートステイ）

- 住所 東京都練馬区上石神井3丁目2-18
- 電話 03-5991-1331
- 定員 特別養護老人ホーム 40床 / ショートステイ 4床
- Instagram https://www.instagram.com/kamishakuji_kohoen/ 上石神井幸朋苑インスタ



高いサービスの提供へと繋がっています。「最初に来た時、ご利用者はやりたいことを、ご自分のタイミングでできて、ゆったりとした生活を送っていると感じました」と話す通り、施設内には穏やかな時間が流れています。

情報を発信し 地域との交流を拡げたい

「現場の職員はとても良いケアを提供しているので、しっかり情報を発信したいです」と高井さんはSNSを開設。普段のレクリエーションや、地域の人も参加できるイベントの様子を積極的に伝えており、ご利用者の明るい笑顔が印象的です。イベントは今後もさまざまな内容が企画されているほか、職員がお祭りのボランティアとして参加するなど、地域に出る機会も増やす予定です。

また、地域の人が何でも相談できる「よろず相談」の活動もスタートし、近所の人が飛び込みで相談に来ています。行政や地域包括支援センターと連携して、問題の解決につなげています。「近所の人が当たり前に来て、気軽に相談できる開かれた場所にしたいです。ご利用者やご家族、この地域の方に『こうほうえんがあって良かった』と思っていただける取り組みを目指しています」。

「上石神井幸朋苑が大切にしているのは『普通の暮らし』です。施設や介護保険のルールはありますが、可能な限り当たり前前の暮らしを提供したいと考えています」と話すのは施設長の高井さんです。例えば食生活で言えば、施設では誤嚥や窒息のリスク、栄養管理などが理由で、以前の暮らしのように自由に食べることは難しくなります。その中でも、ルールは守りつつ、ご利用者が長年の暮らしで築いてきたそれぞれの「当たり前」をできるだけ持ち込める場所でありたいと考えています。また、



（左）施設長 高井 裕一さん 2008年にこうほうえんに入職。東京都内のこうほうえんの3か所の事業所勤務を経て、昨年から上石神井幸朋苑へ。
（右）主任介護士 堂前 広幸さん 2007年入職。入職以来、東京都北区のうきま幸朋苑に勤務する。2025年3月に上石神井幸朋苑に移る。

「第29回こうほうえん研究発表会」優秀賞受賞者

「こうほうえん研究発表会」は、年1回、その年の取り組みとして、職員が調査・研究した成果を発表し研鑽し合う研究発表の場です。学会発表の形式で行われ、毎年100以上の演題が集まっています。第29回は昨年に引き続き「ハイブリッド・オンライン方式」で開催。全84演題の発表がありました。今号は、優秀賞受賞者の中から2名の職員を紹介します。

ICTを活用して保育の質向上へ 膨大な作業がタブレット1台で完結

保育士は、園児のお昼寝の時間などを使って連絡帳や保育日誌の記入、指導案の作成などを行っています。これまでは手書きや、一部のパソコンでしか作業できなかった大きな負担でしたが、3年前に業務支援アプリ「CODMON(コードモン)」を法人全体で導入したことで、劇的に改善されました。タブレット一台で連絡帳の記入をはじめ、さまざまな業務を完結でき、業務効率化を実感しています。時間に余裕が生まれたので、保育

の質の向上に充てられるようになりました。また、保護者もアプリから写真付きの連絡帳の確認や休みの連絡ができるので便利だと好評です。

こうした当園のICT活用の事例を「こうほうえん研究発表会」で発表したところ優秀賞をいただき、本当に驚きました。この気持ちを忘れずに、ICTをうまく活用してより良い保育を提供し、地域の誰もが安心できる保育園にしていきたいです。



業務改善部門

【受賞演題】「ICT導入による私たちの変化
～保育の質はあがったのか～」

プロフィール



キッズタウンうきま 副園長

くどう ゆうこ
工藤 優子さん

保育士として働き、2011年から『キッズタウンうきま』へ。産休・育休を経て3年前から副園長を務める。

楽しいイベントで ご利用者を増やしたい！

生活相談員は、施設の利用希望者やご家族の相談業務に始まり、その方が快適で、可能な範囲で自立的に日常生活を送れるように施設やケアマネジャー、他の利用施設や地域の関係機関と連絡調整を行います。デイサービスの稼働率を上げるのも役割の一つであり、イベントで臨時利用者を増やす取り組みについて、今回の研究発表会のテーマにしました。

職場の皆さんの助けを借りながら、ひな祭りなど

の季節のイベントや、毎月のおやつづくり、併設する保育園の子どもたちとの交流など、どんなイベントだと楽しみにして来てくれるのか報告をまとめ、優秀賞を受賞することができました。今後も楽しんでもらえるイベントを考えるのももちろん、普段の業務の中で、ご利用者やご家族から「鈴木さんで良かった」「こうほうえんに通えて良かった」と信頼していただけるように丁寧なかかわりを続けていきたいです。



在宅・地域支援部門

【受賞演題】「デイサービス稼働率アップに向けたさらなる取組
～楽しみを取り入れ、もっともって行きたくなるデイサービス～」

プロフィール



デイサービスうきま幸朋苑 生活相談員

すずき めぐみさん

2012年、福祉系の大学から新卒で入職。介護士として特養に2年半勤務し、現在はデイサービスとショートステイの生活相談員。

日本看護 協会長 表彰



プロフィール

新しいなば幸朋苑 看護師

なかの ちかこ
中野 千香子さん

長年、鳥取県立中央病院に勤務し、2005年に退職して新しいなば幸朋苑に入職。現在は非常勤職員として勤務。

看護師生活50年 多方面で活躍

病院と介護施設の看護の違いを実感

1976年、鳥取県立中央病院に看護師として採用され、小児病棟、ターミナル病棟（婦人科、放射線科）、ICU、整形外科外来、外科病棟で勤務してきました。2005年、子育てもひと段落したタイミングで、もう少し余裕を持てる環境で働きたいと、『特別養護老人ホーム新しいなば幸朋苑』に入職。当初は病院と介護施設の看護の違いに戸惑いました。病院は病気を治して命を助ける場所であるのに対して、施設はご利用者の生活の場所です。最初は「抗生物質を投与した方がいいのでは」「もっとできることがあるのではないか」と疑問に思うことがありましたが、以前同じ職場で働いていた特養の常勤医師から「ここは自分らしく穏やかに過ごしてもらおう生活の場所」と教えられ、徐々に慣れていくことができました。

看護師の処遇改善などに尽力

新しいなば幸朋苑で働く一方で、鳥取県看護協会でも10年以上、さまざまな委員を務めてきました。なかなか福祉分野の看護師で委員をする人が見つからず、声をかけていただいたのがきっかけでしたが、社会経済福祉委員、教育委員、ワークライフバランス



推進委員等を経験させてもらいました。ワークライフバランスのアンケートをとって処遇改善につなげる取り組みや、「病院と連携した高齢者介護施設新人看護師教育プログラム」の作成など、そういった活動が評価されて、「日本看護協会会長表彰」という賞までいただき、感謝の気持ちでいっぱいです。

来年で看護師生活50年。後進の皆さんにはご利用者とその人らしく生活できるように尊厳を大切に守りながら、新しいやり方で歩んでいってほしいと思います。私自身は現在是非常勤で働き、受託研修を担当しているほか、時々、現場の看護にも入りますが、私生活も充実させたいと昔から興味があったピアノを習い始めました。いつかご利用者の皆さんの前で演奏を披露することが目標です。

オールジャパンケアコンテストは、“家族、地域とそれぞれの密接なつながり「絆」を大切に”を理念に、2010年の開始から多くの方のご協力を得ながら今回で15回目を迎えます。全国から集まった選手（介護従事者）、地域の方、介護サービスご利用者やそのご家族など介護に携わる方々と一緒に、これまでの介護を見つめ直し、これからの介護を考え実践する機会を提供することを目的としています。

主管は昨年に引き続き、「社会福祉法人こうほうえん」、「SOMPOケア株式会社」、「株式会社やさしい手」、「東京ロイヤル株式会社」と、今回から「社会福祉法人長岡福祉協会」を加えた5法人が務めます。

昨年の第14回大会では、延べ1,500名が来場し、会場実技出場者138名（エントリー156名）、動画投稿部門38名が参加しました。また、厚生労働省の調査研究事業の一環として、本コンテストの効果分析が実施され、2025年3月に公表された厚生労働省の報告書では、参加者の94.7%が「技能向上を実感」、92.1%が「学び続けたいという意欲が高まった」と回答するなど、現場で働く職員への波及効果が明らかになりました。参加者のみならず、支援者や施設管理者からも、「チームの意識が向上した」「現場内研修に活用できた」などの声が寄せられています。さらに、実技を通じて介護技能が“見える化”されることで、職員自身が自らのケアを客観的に捉え直すきっかけとなり、現場の質の向上につながっていることも示唆されました。大会を通じて他者の技能を見ることでモチベーションが上がり、学びを職場に生かすといった良い循環が生まれています。

今大会は、昨年と同様に東京ビッグサイトで開催します。一層活力のある大会になると期待しています！！



「第15回オールジャパンケアコンテスト」

■日時：2025年10月4日（土）（前日は前夜祭）

■課題分野：会場実技（認知症、看取り、食事、入浴、排泄、口腔ケア、外国人介護職員）・動画投稿（養成校学生分野）

■会場内イベント：①社会福祉法人善光会／（株）善光総合研究所による介護プラットフォーム「SCOPシリーズ」等の展示紹介

②公益社団法人日本介護福祉士協会による

認定介護福祉士養成プログラムの紹介

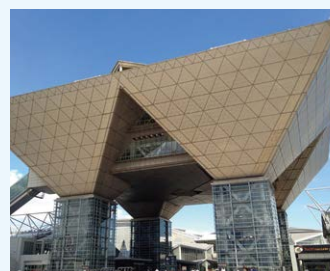
■会場：東京ビッグサイト 西3ホール

（東京都江東区有明3-11-1）

「第15回AJCC」
公式HP



「第15回AJCC」
Instagram



寄付者 一覧

※2025年3～5月にご寄付をいただいた皆さま

寄付金合計額：1,303,346円

心温まるご寄付を賜り、深くお礼申し上げます。皆様から賜ったご寄付は、ご厚志に沿い「地域貢献事業」として使わせていただいております。

●石田和弘様／200,000円 ●（有）マツモト様／60,000円 ●金田安弘様／5,000円 ●インテリア瀬尾様／100,000円 ●（株）米子青果様／20,000円 ●濱田智世子様／30,000円

●その他／888,346円 <なんぶエリア>●船越和美様／寄付金 <北東京エリア>●ひまわり組保護者一同／サッカーゴール（エアゴール）

<西東京エリア>●卒園児保護者／卒園製作用 看板木材 ●保育園卒園児／玩具、絵本、毛糸・布、製作材料、衣類 ●地域の方／メモ帳・紙類

ボランティア 一覧

貴重な時間をいただき、厚くお礼申し上げます ※2025年3～5月にボランティアにご参加いただいた皆さま

<さかいエリア>●歌・演奏…角ファミリーバンド4名 ●演奏…安原様 ●演奏・紙芝居…安原様と音楽グループと紙芝居の会7名 ●アロマハンドマッサージ…田村貴子様

<よなごエリア>●読み聞かせ…名越節子様 ●生け花教室…野本操様 ●草取り…西藤栄五様、他2名 ●食器洗い…新裕子様、他1名 ●アザレア祭り…山崎裕子様（ハンドマッサージ）、鳥取県立日野高校10名（荒神神楽）、明治安田生命保険会社2名（血管年齢測定）、キッズタウン園児10名（歌と踊り） <なんぶエリア>●サクセス演奏…坂本様 ●ウクレレ演奏・歌…まちなかウクレレ音楽チーム10名 ●ハーモニカの演奏・手品…佐世川正儀様 ●ハーモニカの演奏・歌…中合みちる様、他1名 ●生け花…齊木様 ●フラワーアレンジメント…宇山様

●軽作業・紙芝居読み聞かせ・手作業・読み語り…秋鹿美英子様 ●支え愛力フェ補助…西山直子様、齊木ミズ子様、勝部尚子様、栗田千恵様、仲田みどり様、尾原稔枝様、佐藤陽子様、石田喜和子様、足羽恵美子様、梅木恭美様 ●軽作業・コミュニケーション・レクの補助…鳥取大学医学部1年生10名 ●子どもの見守り・話し相手・調理・配膳等…秋鹿富美子様、生田加代子様、大島美紀子様、稲田淳子様、井上幸子様、中田玲子様、河野登美子様、須山幸子様、島地里美様、松井良子様、谷口早苗様、角千春様、田子とし子様、美柑昌子様、太田幸代様

<いなばエリア>●コミュニケーション…社会福祉協議会紹介2名、あんしん介護相談員6名 ●話し相手・軽作業…美作大学2年生1名、鳥取城北高校2年生4名 ●音楽…1名

●音楽他…あさひが丘教会2名 ●囲碁・将棋…鳥取市介護支援ボランティア2名 ●落語…1名 ●レクリエーション…1名 <北東京エリア>●美容・メイク…介護美容研究所41名

●ハンド・フットマッサージ…介護美容研究所8名 ●清掃・屋上草むしり…多田様 ●食器洗い・配膳…渡邊様、池間様 ●配膳・傾聴…桐ヶ丘高校2名 ●書道…小林様

●アクセサリ作り・制作活動…芦田様 ●絵本読み聞かせ…おはなしチャチャチャ6名、お話しボランティア3名 ●踊り・マジック…あすなろ会4名 ●巫女さん舞踊…亀岡八幡宮雅楽会6名

●似顔絵…似顔絵サークル3名 ●コンサート…職員10名 ●車椅子清掃…萩原様 ●ネイル・ハンドマッサージ…池田様 ●詐欺防止講義…赤羽警察署2名 ●しおり作り…しおん3名

●素顔・パネリングアター…芳澤様 ●遊ぶ会・リトミック…守岡様 <西東京エリア>●職場体験（子どもと遊ぶ）…落合第二・第四小学校、戸塚第三小学校5名

<南東京エリア>●子どもと遊ぶ・掃除・制作物手伝いなど…伊藤学園3年生7名 ●誰でも食堂…徳永様 ●コンサート…職員友人4名 ●調理・傾聴…申様、若林様 ●傾聴…松永様

●健康測定会…（株）ファミリー薬局4名 ●ゲーム作成…奥野様、他1名 ●研修…（株）クックデリ3名 ●イベント…（株）第一興商1名



法人本部事務局

〒683-0853

鳥取県米子市両三柳1400

TEL:0859-24-3111 FAX:0859-24-3113

フリーダイヤル:0120-418-658

E-mail:welfare@kohoen.jp

東京事業本部

〒140-0015

東京都品川区西大井2-5-21 ケアホーム西大井こうほうえん内

TEL:03-6410-7365 FAX:03-6410-7364



2014年度日本経営品質賞大規模部門
（鳥取地区／介護）受賞



こうほうえんはISO9001-2015
（品質マネジメントシステムの国際規格）を
認証取得しています



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
おもてなし経営企業に選定されました



こうほうえんは
社会福祉法人として初めて
ハイサービス日本300選に選定されました

詳しくはHPへ



こうほうえん 検索

<https://www.kohoen.jp>